アラゴン—新しいスペインに出会う

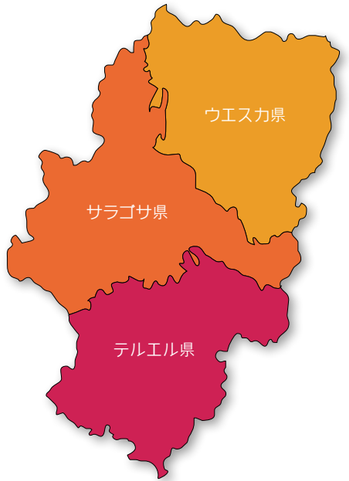
アラゴンは、イベリア半島の北東部に位置する自治州です。ウエスカ県、サラゴサ県、テルエル県の三県からなり、47,719 km^{2}の面積に、約130万人が暮らしています。

アラゴン自治州の最大の特徴は、交通の要所として発展してきた歴史です。北部ウエスカ県に連なるピレネー山脈はヨーロッパへの交通路として機能し、中部サラゴサ県を流れるエブロ川は北スペインの主要都市と内陸部を繋ぎ、南部テルエル県に広がるイベリコ山系はカスティーリャ地方と地中海沿岸を結ぶ重要な中継地点として発展しました。これらの地理的な好条件により、この地には、イベリア人、ローマ人、西ゴート族、イスラム教徒、ユダヤ教徒、キリスト教徒が足跡を残しました。特に、アラゴン文化の結晶であるロマネスク建築群とムデハル建築群は現在も大切に保存されています。

変化に富む景観も見どころです。標高3,000m級の峰々が集うピレネー山脈、ステップ気候の砂漠、多くの恵みをもたらす豊かな平原、深い森、切り立った岩山、悠大な渓谷が共存しています。

食文化も外すことはできません。寒暖の差の激しい畑でたくましく育ったぶどうを使用したワイン、豊かな牧草を食べて育った仔羊、太陽をたくさん浴びた果物、乾燥した土地で熟成された生ハムなど、大地の恵みを堪能しましょう。

大自然の中で田舎の風景と中世の面影がひっそりと佇むアラゴンを舞台に、新しいスペインを知る旅に出かけましょう。



www.turismodearagon.com/ja/

TURESPAÑA ESPAÑA

ARAGÓN turismo sostenible

GOBIERNO DE ARAGON

アラゴン自治州

ウエスカ県・サラゴサ県・テルエル県

ウエスカ県 – ピレネー山脈とロマネスク建築

アラゴン州北部に位置するウエスカ県は、肥沃な平地から、雪深い山岳地帯まで、魔法にかかったような景観の変化を持つ土地です。

その中でも特に強い存在感を放つのが、ピレネー山脈です。威厳ある峰々や万年雪、野生動物、刻々と色づきを変える森、小さな春の花々は、尽きることのない驚きを与えてくれます。数ある渓谷は、これら自然の楽園です。ピレネーの伝統家屋と伝統衣装が残るアンソ渓谷、フランスからソンポルト峠を越えサンティアゴ巡礼路が通るアラゴン渓谷、美しい村々が点在するテナ渓谷、手つかずの自然が残るビエルサ渓谷、ピレネー山脈最高峰アネト峰の麓にひっそりと佇むベナスケ渓谷。ユネスコ世界遺産に登録される、オルデッサ・モンテ・ペルディード国立公園はハイキングやトレッキングのメッカとして国内外で知られています。

重厚な石造りのロマネスク建築も見逃すことができません。ウエスカ県の県都ウエスカ市のサン・ペドロ・エル・ビエッホ教会、ヨーロッパ最高峰の保存状態を誇るロアーレ城、岩山の中にひっそりと佇むサン・フアン・デ・ラ・ペーニャ修道院、サンティアゴ巡礼路の重要な中継地点でありアラゴン王国の古都であるハカの大聖堂と司教区美術館など、北スペインならではの素朴で味わい深い建築物を鑑賞しましょう。

点在する美しい村々では、町歩きがおすすめです。エメラルドグリーンのベーロ川に囲まれた小高い丘の上に建ち、イスラム時代の名残ただようアルケサル、ピレネー山脈を背景に佇む中世の町アインサ、アラゴン王国最初の王都ハカなど、のんびりと歩くことで博物館のような迫力をもつ小さな村を楽しめます。

モンカーヨ山

アルハフェリア宮殿

アラゴンの仔羊

サラゴサ市のバル街

ラ・セオ大聖堂

テルエル県 – 中世の面影とムデハル建築

アラゴン州南部に位置するテルエル県は、広大な平地と自然豊かなイベリコ山系が広がる、素朴で美しい県です。

トゥリア川に沿うように佇む県都テルエル市には、美しい旧市街地が残っています。街の中心には、市民の憩いの場であるトリーコ広場が広がり、テルエルのシンボルである牛の像やモデルニスモ建築が目を引きます。細い路地を歩くと、中世に実在したといわれる“テルエルの恋人たち”の霊廟やムデハル建築が現れます。

テルエル市にはサンタ・マリア大聖堂、サン・マルティンの塔、エル・サルバドルの塔、サン・ペドロ教会の４つのムデハル建築があり、「アラゴン・ムデハル建築群」の先駆けとして1986年にユネスコの世界遺産に登録されました。レンガ造りの塔にちりばめられた美しい陶器装飾、日暮れと共に影を深める幾何学模様のレリーフ、気品を感じさせる半円アーチや尖塔アーチを鑑賞しながら、キリスト教とイスラム教が共存した歴史の面影を追いましょう。

テルエル市から少し足を延ばし、アルバラシンという小さな町を訪れるのもよいでしょう。旧市街地を取り囲む城壁や赤茶色が特徴的な家々、石畳の道、城の跡は旅人を遠い昔にいざないます。町の周りを取り囲む自然豊かなアルバラシン連山に位置する、ロデノの松林では、先史時代の壁画を見ることができるハイキングコースもあります。その他にも、バルデロブレスやルビエロス・デ・モラでは、中世の面影を残す町の散策を満喫できます。

おいしい食材もたくさん揃っています。原産地呼称を認められたテルエルの生ハムやカランダの桃、バッホ・アラゴンのオリーブオイルをはじめ、アルバラシンのポルチーニ茸、サリオン村のトリュフなど、季節の味を堪能しましょう。

ピレネー山脈

ウエスカ市

ロアーレ城

サラゴサ県 – 歴史の交差点

アラゴン州中部に位置するサラゴサ県は、古くから大西洋と地中海を繋げ、スペインとヨーロッパを繋げた歴史の交差点です。

州都サラゴサ市は、マドリードやバルセロナ、バレンシア、ビルバオ、トゥールーズの各主要都市と300km圏内にあり、北スペイン随一の交通の要所として知られています。ローマ時代には、ローマ帝国初代皇帝アウグストゥスの名を取りカエサラウグスタとして、イスラム教徒支配時代はサラゴサ王国の都として、キリスト教徒支配時代はアラゴン王国の都として、常にアラゴンの中心都市として繁栄してきました。

サラゴサ市内に一歩足を踏み入れると、時間を巻き戻したかのような美しい景観に出会います。浴場や劇場などのローマ遺跡、イスラム時代の最も美しい建築物のひとつと言われるアルハフェリア宮殿（ユネスコ世界遺産）、ロマネスク様式やムデハル様式が混在するラ・セオ大聖堂（ユネスコ世界遺産）、聖母ピラール大聖堂、サラゴサ県出身のゴヤの作品を収める美術館など、歩くことでアラゴンの歴史を辿ることができる貴重な街です。日が暮れはじめると、旧市街地のバル街が活気づきます。地元民と肩を並べてタパスを味わう、バル巡りに繰り出しましょう。

サラゴサ市周辺では、美しい田舎町や自然景観を楽しむことができます。迫力ある城壁が残る町ダローカ、12世最高峰のスペイン・ロマネスク建築と称される教会が残る町ウンカスティージョ、カトリック王フェルナンド2世生誕の地であるソス・デル・レイ・カトリコは、じっくりと眺めたい町々です。ゴシック様式、ムデハル様式、ルネサンス様式が交じり合う美しい大聖堂が有名なタラソナや、美しい滝の数々を楽しみながら散策ができるモナステリオ・デ・ピエドラにも足を延ばしてみてはいかがでしょうか。

テナ渓谷

準ピレネー山脈

トリーコ広場

イサベルの結婚式

バルデロブレス村

テルエルの生ハム

テルエルの大聖堂